

2026年度 SSI（総探）

【第5回】

リサーチクエスチョンを導出しよう！

- 前編 -



2026年5月26日（火）



夏休み前までの見通し

7月7日(火)に中間計画発表会を実施します！

段階	実施内容	日程	ノート	報告書
STEP1	研究テーマを決める	5/19	(1)(2)	(1)(2)
STEP2	リサーチクエスチョンを導く	5/26	(3)(4)	(3)①②
STEP3	仮説を立てる	6/16	(5)	(3)③
STEP4	適切な研究方法を選ぶ	6/23	(6)	(4)
中間目標	研究計画発表会準備	6/30	完成	(4)まで
中間目標	研究計画発表会	7/7	完成	(4)まで

【中間目標】 プレ研究計画発表会 (7/7)

高校45期
SSI (総合探究)

プレ研究計画書兼報告書

チーム番号

研究者氏名

発表目的

- 自分たちの研究内容を明確にする。
- 他者から新たな気づきを得る。

発表時間: 1チーム4分

- 研究テーマの説明 **分かりやすく！**
- 研究背景 (研究動機や先行研究)
- リサーチクエスチョン **明確に！**
- 仮説と検証方法 **論理的に！**

発表内容

研究計画書
(1)-(4)部分

(1) 研究テーマ

(2) 研究背景 (研究動機やテーマについての先行研究、一般的な理解など)

(3) 研究目的

①リサーチクエスチョン

②リサーチクエスチョンの意義

③仮説(現仮)

【中間目標】 プレ研究計画発表会 (7/7)

高校45期
SSI (総合探究)

プレ研究計画書兼報告書

チーム番号

研究者氏名

※チームメンバー全員の氏名を記入

具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。

(1) 研究テーマ

(2) 研究背景

(3) 研究目的

①リサーチエスチョン

②リサーチエスチョンの意義

③仮説(現段階でリサーチエスチョンに対してどのような答えがあると予想しているか)

研究計画書
(1)-(4)部分

発表内容

研究テーマ

研究背景

リサーチエスチョン

仮説と検証方法

スライド

課題研究メソッド

p.142-144 ①

プレ研究計画書兼報告書

(1) 研究テーマ

生成AIの社会的課題

テーマ

チーム番号: 920

チーム番号

課題研究メソッド

p.142-144 ③

プレ研究計画書兼報告書

(2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる

課題研究メソッド

p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書

(3) ① リサーチエスチョン

(3) ② リサーチエスチョンの意義

リサーチエスチョン

- 研究に取り組んだリサーチエスチョンの内容とそれが生じた背景

課題研究メソッド

p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書

(3) ③ 仮説

仮説と検証方法

- リサーチエスチョンに対し、自分たちの設定した「仮説」(予想される仮の答え)をどのように設定したのかを説明する。
- 先行研究・事例から根拠を持って仮説を示すことが大事である。
- できる
- どのよ
- のか、身
- 具体的

4枚以上

本日の活動

STEP1	研究テーマを決める	4月
STEP2	リサーチクエスチョンを導く	5月
STEP3	仮説を立てる	6月
STEP4	適切な研究方法を選ぶ	7月
中間目標	研究計画書を作成する	7月
STEP5	調査を実施する	9月
STEP6	結果をまとめて考察し、結論を導く	9月
STEP7	研究内容をまとめる	9月



この部分

プレ探究ノート

(2)まで完了

(3)(4)着手

【STEP1】 研究テーマ

- ★「何に焦点を当てて研究を行うか」を示すもの
- ★「〇〇について研究する」の「〇〇」に相当する部分

自分の
興味・関心

社会・学術
の話題

研究テーマ

高校47期 SSI (総合探究)		プレ探究ノート		
★ 研究計画兼報告書にまとめる前段階の記録シートとして個人でまとめます ★				
チーム番号	クラス	1 -	番号	氏名
共同研究者				
↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載 (例: 640 芝浦 太郎 740 柏 花子)				
(1) 研究テーマを決めよう!				
ワーク①	※ワーク①は「生成AI」を使わずに、自分で考えましょう。 まず、チーム編成時に、チームメンバーで考えていた漠然とした研究のテーマ(方向性)を【仮テーマ】として設定します。 その後は一度、 チームで相談はせず、個人で 下記のことに取り組む時間としましょう。 【仮テーマから連想されるキーワード】をWikiサーフィンなども活用しながら、5個以上挙げてください。 【このテーマに興味を持った理由】を自分の言葉でしっかりと述べましょう。 - このテーマについて、【検討したい3つの視点】を設定してください。			
【仮テーマ】(チーム編成時に考えていた「メンバーの研究したいことの共通項」)				
【仮テーマから連想されるキーワード】 *Wikiサーフィンなどで調べていこう!				
【このテーマに興味を持った理由】 *ここが研究の原動力となる最も大事な部分! 自分の言葉でしっかりと述べよう。				
【検討したい3つの視点】 *下の「視点の例」を参考にして3つの視点を設定しましょう。				

【STEP1】 テーマ設定のポイント

- ❑ 興味・関心との関連があるか？
- ❑ 社会的な課題もしくは学術分野との関連を見出せているか？
- ❑ 抽象的で広くとらえられるような言葉を具体的な文言に言い換えられているか？
- ❑ 研究テーマで取り上げた課題の現状について、客観的なデータを収集し、理解できているか？
- ❑ 社会科学系の研究の場合：
 - 関連する制度や法律、歴史的背景を理解しているか？
- ❑ 自然科学系の研究の場合：
 - 関連する原理や原則、理論(定理など)を理解しているか？

(1) 研究テーマを決めよう ワーク①

※「生成AI」を使わずに、自分で考えましょう。

Step1【仮テーマ】

チーム編成時にとりあえず設定した仮テーマを書く。



Step2【仮テーマから連想されるキーワード】

仮テーマから連想されるキーワードを列挙する。



Step3【このテーマに興味を持った理由】



Step4【検討したい3つの視点】

「視点の例」を参考にして3つの視点を設定する。

高校47期 SS1 (総合探究)		プレ探究ノート			
★ 研究計画兼報告書にまとめる前段階の記録シートとして個人でまとめます ★					
チーム番号		クラス	1 -	番号	
氏名					
共同研究者					
† チームメンバー全員の組番号と氏名を記載 (例: 640 足浦 太郎 740 船 花子)					
(1) 研究テーマを決めよう!					
ワーク①	※ワーク①は「生成AI」を使わずに、自分で考えましょう。 まず、チーム編成時に、チームメンバーで考えていた素案とした研究のテーマ(方向性)を【仮テーマ】として設定します。 その後は一度、 チームで相談はせず、個人で 下記のことに取り組む時間としましょう。 【仮テーマから連想されるキーワード】をWikiサーフィンなども活用しながら、5個以上挙げてください。 【このテーマに興味を持った理由】を自分の言葉でしっかりと述べましょう。 - このテーマについて、【検討したい3つの視点】を設定してください。				
【仮テーマ】(チーム編成時に考えていた「メンバーの研究したいことの共通項」)					
【仮テーマから連想されるキーワード】 *Wikiサーフィンなどで調べていこう!					
【このテーマに興味を持った理由】 *ここが研究の原動力となる最も大事な部分! 自分の言葉でしっかりと述べよう。					
【検討したい3つの視点】 *下の「視点の例」を参考にして3つの視点を設定しましょう。					
カテゴリ	視点の例				
社会の仕組み	政治、法律、経済、地域社会、国際関係、税金、都市計画、雇用、労働、メディア、観光、公共サービス、格差、リーダーシップ				
人間と文化	倫理、心理、教育、文化、芸術、歴史、哲学、言語、宗教、スポーツ、ファッション、コミュニケーション、思考プロセス、エンターテインメント、伝統継承				
暮らしと安全	技術、医療、福祉、環境、防災、働き方、食文化、交通・モビリティ、エネルギー、情報セキュリティ、買い物(消費行動)、健康維持、資源サイクル、住宅、SNS				

(1) 研究テーマを決めよう ワーク②

※「生成AI」に次のプロンプトを入力しよう。

役割

あなたは高校で課題研究を指導する経験豊かで優秀なメンターです。

目的

私が入力した情報を踏まえ、私が高校生として、調査・検証可能なレベルの研究テーマを決定するための思考のヒントになる問いかけをしてください。

制約事項

- 具体的な研究テーマやタイトルの提案は一切しないでください。
- 私の思考を広げ、深めるための【問いかけ】に徹してください。
- 選択した3つの視点について各1問、全体を貫く本質的な問いを1問、計4問のみ提示してください。

入力情報

- 仮テーマ:「【仮テーマ】」
- 自分で考えたキーワード:【仮テーマから連想されるキーワード】
- このテーマに興味を持った理由:【このテーマに興味を持った理由】
- 検討したい3つの視点:【検討したい3つの視点】

ワーク①で
書いたもの

(1) 研究テーマを決めよう ワーク③

※「生成AI」を使わずに、自分で考えましょう。

AIが出力した「問いかけ」に対して、自分の直感で、
チームの研究テーマにつながりそうなものを1つ選ぶ。

「なぜ自分はこれに惹かれたのか？」
「今の自分ならどう答えるか？」
をメモしておこう！

ディープフェイクは人間の尊厳を
揺るがすことにもつながるのか。
怖いなあ…。

1. 教育の視点

AIが知識の提供や論理的な正解を出す役割を担うとき、それでも人間が「学校」という集団の中で時間をかけて学ぶべき「能力」や「経験」とは、具体的に何だと考えますか？

2. 技術の視点

キーワードにある「Human in the Loop（人間による介入）」において、AIの精度が極限まで高まったとき、人間が最後に「決定ボタン」を押す役割を担い続けることは、果たして人間の主体性を守ることになるのでしょうか。それとも、単なる形式的な手続きになってしまうのでしょうか？

3. 倫理の視点

「ディープフェイク」のように、AIが人間の外見や声を完璧に再現できるようになったとき、私たちは何を根拠に「目の前の相手は、唯一無二の人間である」と信じ、その存在を尊重すべきだと思いますか？

全体を貫く本質的な問い

AIが「便利な道具」の域を超えて、人間の知能や役割の一部を代替し始めたとき、それでもなお、AIには決して代替できず、人間だけが引き受けなければならない「責任」や「痛み」とは何でしょうか？

(1) 研究テーマを決めよう ワーク④

※「生成AI」を使わず、ディスカッションを。

これまでの個人ワークの結果を共有

「チームの研究テーマにつながらそうな問いかけ」を発表し合う
メンバーの独自の視点の尊重 & ズレや重なりを楽しむ



チームとして解決すべき「一つの研究テーマ」にまとめる

【チームで設定した研究テーマ】

今後、研究が進んだときに変わる可能性もありますが、まずは現時点で設定したものを記し、変更になった際には、更新していきましょう。(

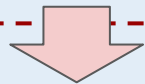
現時点での研究テーマ

研究の途上でテーマを更新することも可能です！

(月 日 現在)

(2) 先行研究を調べてみよう

先人たちが行った研究の諸業績をふまえる。



先行研究



文献

自分が行おうとしている
研究テーマと同じ分野で
先に発表されている研究



インターネット



論文

(2) 先行研究を調べてみよう

☆ 参考になりそうな資料(論文・報告書・記事など)の書誌情報とリンクを貼っておこう！

[CiNii Articles]

主に日本で出版された学術論文や図書、雑誌に関する学術情報データベース。日本の大学の博士論文、大学図書館の収蔵図書についても検索ができる。日本(語)に特化した内容を調べる場合は、非常に有効である。

[Google Scholar]

学術専門誌や論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料を検索できるサービス。手軽に使用できるので、多くの研究者が利用している。対応言語も多い。

他に、特許も含めて検索できるJ-GLOBAL、様々な分野から検索できるJ-STAGE(J-STAGE)、また官公庁などが公表している報告書などがある。
いずれも、オンラインアクセスできる文献は限られているので注意すること。

- ① 書誌情報(作者・タイトル・書誌情報) ② リンク(参考にしたWebページのURLなど)
③ 上記の資料に書かれている内容について簡潔にまとめよう。

例	①書誌情報	剣持武彦 『夏目漱石『草枕』とロレンス・スターン『トリストラム・シャンディの生活と意見』』 『清泉女子大学紀要』
	②リンク	https://seisen.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=280&file_id=18&file_no=1
	③内容	イギリス留学を経た夏目漱石が英文学の知見を踏まえてどのような文学作品を創作したか。
1	①書誌情報	
	②リンク	
	③内容	

(2) 先行研究を調べてみよう

情報源	メリット	留意点
書籍	体系的にまとまっており、用語の定義や歴史的背景を知るのに最適。 査読や校閲を経て出版されているため信頼性が高い。	出版から時間が経過している場合、最新の情報ではない可能性がある。 著者の経歴を確認すること。
一般的なWebサイト	最新のニュース、速報、個人の多角的な意見に触れられる。 公的機関(.go.jp)の統計データなどは一次ソースとして有用。	「誰が書いたか」が不明なものが多い。 広告目的や個人の主観が混じりやすい。 必ず他の情報源とのクロスチェックを行うこと。
日経電子版	経済・産業の専門家による分析。 社会的なトレンドや「今、何が課題か」という社会実装の視点を得られる。	経済的側面が強調される傾向にある。 科学的・中立的な視点を持つために、学術論文などとの併用が必要である。
学術論文	特定の「問い」に対する厳密な検証結果。 引用文献が明記されており、知識の根拠(エビデンス)として最も強力である。	専門用語が多く難解。 実験条件が限定的なため、その結果が常に一般化できるとは限らない。

【STEP2】 問いとリサーチクエスチョン

《 課題研究 》

まだ答えの分かっていない「**問い**」に取り組む。

研究テーマ

何に焦点を当てて研究を行うかを示すもの

問い

漠然とした疑問を疑問文の形で表したもの

発展

解決すべき本質的な問い(≡ issue)

リサーチクエスチョン

研究全体で明らかにしたいこと

ワーク③ (3)問いを立てよう

研究テーマ



問い

何に焦点を当てて研究を行うかを示すもの

漠然とした疑問を

疑問文の形で表したもの

いくつかの

「問いの種類」にあてはめてみる

(3) 問いを立てよう

問いの種類	問い
言葉の意味や定義を問う「問い」	〇〇の意味は？ 〇〇の定義は？ 例：「安全なトイレ」とは？「衛生的」とは？
原因(なぜ)を問う「問い」	なぜ〇〇が生じているのか？ 例：なぜ災害時にトイレが不足するのか
信憑性を問う「問い」	〇〇は本当に生じているのか？ 例：トイレ不足によって健康に影響は出ているのか？
比較を行う「問い」	• ほかの物質や異なる条件ではどうなるのか？ 例：過去の災害ごとのトイレの状況はどのように異なるか？
先行研究・先行事例を問う「問い」	〇〇に対して、どのような取り組み、研究が行われてきたのか？ 例：過去の災害においてどのようなトイレ問題が生じているのか？
影響を	〇〇によって、どのようなことが起こるのか？ 例：携帯トイレを備蓄することで災害時にどのような効果もたらされるのか？

プレ探究ノート(3)

【STEP2】 研究テーマに対して問いを立てる

問いの種類	問い
言葉の意味や定義を問う「問い」	〇〇の意味は？ 〇〇の定義は？
原因(なぜ)を問う「問い」	なぜ〇〇は生じているのか？
信憑性を問う「問い」	〇〇は本当に生じているのか？
比較を行う「問い」	● 過去にくらべて、〇〇はどのように変化しているのか？ ● 〇〇はどの程度進んでいるのか？ ● 他国ではどれくらい〇〇が進んでいるのか？ ● ほかの物質や異なる条件ではどのようなになるのか？

【STEP2】 研究テーマに対して問いを立てる

問いの種類	問い
先行研究・先行事例を問う「問い」	● ○○に対して、どのような取り組み、研究が行われてきたのか？
影響を問う「問い」	● ○○によって、どのようなことが起こるのか？
方法や関連性を問う「問い」	● ○○と△△にはどのような関連があるのか？ ● どのようにして○○を行う(○○は行われている)のか？

研究テーマ例① 日本の災害時のトイレ問題

問いの種類	問いの例
言葉の意味や定義を問う「問い」	「安全なトイレ」とは？「衛生的」とは？
原因(なぜ)を問う「問い」	なぜ災害時にトイレが不足するのか？
信憑性を問う「問い」	トイレ不足によって健康に影響は出ているのか？
比較を行う「問い」	過去の災害ごとのトイレの状況はどのように異なるか？
先行研究・先行事例を問う「問い」	過去の災害においてどのようなトイレ問題が生じているのか？
影響を問う「問い」	携帯トイレを備蓄することで災害時にどのような効果がもたらされるのか？
方法や関連性を問う「問い」	人々のトイレに対する意識を調査するにはどのようにすればよいか？

研究テーマ例② 地域資源の活用による奄美の過疎対策

問いの種類	問いの例
言葉の意味や定義を問う「問い」	地域活性化とは何か？ 地域資源の定義とは？
原因(なぜ)を問う「問い」	なぜ方言や地域の伝統文化が絶滅危機にあるのか？
信憑性を問う「問い」	過疎地域での地域活性化策として、人口増加策にばかり重点を置いても良いのか？
比較を行う「問い」	地域資源の活用重点を置いた例は、人口増加策に重点を置いた例より成功しているのだろうか？
先行研究・先行事例を問う「問い」	人口増加策以外の地域活性についてこれまでにどのような取り組みが行われているのか？
影響を問う「問い」	地域資源を活用した地域活性化を行うことで人々の暮らしにどのような影響が及ぶのだろうか？
方法や関連性を問う「問い」	奄美大島で地域資源を活用した地域活性化を行うにはどのような方法があるか。

次回の予定

次回 → 6月16日(火) 6限

- プレ探究ノート(3) 続き
- プレ探究ノート(4)

研究テーマに基づいて
立てた問いをもとに、
リサーチクエスチョンを導きましょう。

STEP1	研究テーマを決める
STEP2	リサーチクエスチョンを導く
STEP3	仮説を立てる
STEP4	適切な研究方法を選ぶ
中間目標	研究計画書を作成する
STEP5	調査を実施する
STEP6	結果をまとめて考察し、結論を導く
STEP7	研究内容をまとめる